羽生市宝蔵寺沼ムジナモ自生地緊急調査

Investigation of Hozoji pond, a natural habitat of *Aldrovanda vesiculosa*

金子　康子
Yasuko Kaneko

埼玉大学　教育学部、環境科学研究センター
Faculty of Education, and Institute for Environmental Science and Technology, Saitama University

Abstract

This investigation of a natural habitat of *Aldrovanda vesiculosa*, an almost extinct aquatic carnivorous plant was initiated by request of Hanyu City. Hozoji pond in Hanyu is the last domestic habitat of *Aldrovanda vesiculosa* and designated as a natural monument of Japan. Although much effort has been expended by Hanyu city and the Mujinamo Preservation Society to foster growth of *Aldrovanda vesiculosa* in the pond since the last investigation in the 1970s, the number of plants that survive through the year remains very limited. In order to restore the environment for *Aldrovanda vesiculosa* growth, 16 researchers conducted experiments and field studies on the distribution of plants and insects, water and soil analysis, and other questions.

Key Words: *Aldrovanda vesiculosa*, threatened plant species, restoration of environment

【受託研究の概要】

ムジナモは生物学的に貴重な水生の食虫植物である。かつては日本各地に点在していたが、戦後の水環境の変化により次々と消滅し、国内最後の自生地となった埼玉県羽生市「宝蔵寺沼のムジナモ」は、国の天然記念物に指定されている。しかし 1966 年の指定と同時に宝蔵寺沼のムジナモはほぼ消失した。1976 年には羽生市教育委員会のもとに、「ムジナモ保護増殖事業に係る調査団」(代表　江森貫一埼玉大学教授（当時)、永野巌埼玉大学教授（当時）)が組織され、多くの埼大関係者が調査に関与した。その後、羽生市教育委員会と羽生市ムジナモ保存会会員の多大な尽力により、宝蔵寺沼の管理、ムジナモの栽培と放流が継続されてきた。しかし宝蔵寺沼のムジナモが年間を通して自然に生育し増殖できる状況にはいまだ至っていない。「宝蔵寺沼ムジナモ自生地」の現状を把握しその保存に資するために、羽生市教育委員会は国庫補助を受け 2009 年から 5 ヵ年計画で「宝蔵寺沼ムジナモ自生地緊急調査」を実施することとし、埼玉大学が委託を受けた。本年度は予備調査期間として、埼玉大学関係者を中心として総勢 16 名の専門家が参加し、動・植物相、水質、地質などの調査を開始した。2010 年 1 月には中間報告会を実施し、具体的な課題や対策について各方面から討議を行った。ムジナモ生育のためには、多様な水生植物や水生昆虫が生育することが可能な多様な環境を確保することが重要課題である。また異常増殖しているウシガエルのオタマジャクシなどによる食害も深刻であり、対策を要する。

次年度は、さらに分野を拡大して本格調査を実施する。ムジナモが継続的に増殖可能な条件を探り、また、宝蔵寺沼における水生生物の多様性復元に資する方策を検討する予定である。

* 〒338-8570　さいたま市桜区下大久保２５５
電話：048-858-3218　FAX：048-858-3690
Email：yakaneko@mail.saitama-u.ac.jp